



ドキドキわくわくで始まった新学期。最初の頃は涙を流していた新入園児の子どもたちも、すっかり慣れて、笑顔が多く見られるようになりました。

幼稚園型認定こども園 和光幼稚園

令和元年7月19日

主幹 三月田 智子

また、進級児の子どもたちも、学年が1つ上がったという自覚が出てきたようで、あいさつの仕方や話の聞く姿勢など、手本となる姿が多く見られました。

こうして、子どもたちが楽しく充実した幼稚園生活を送れたのは、幼稚園で楽しく過ごした後は、大好きなご家族の待つ家庭へ帰ることができるという安心できる場所があったからです。

さて、明日から夏休みが始まります。健康と安全に留意されて、楽しい夏休みになりますようお念じ申し上げます。

創造性を引き出す「いっしょパワー」

～模倣を越えて面白さを高め合う～



子どもたちは、作り物が大好き。色々な材料を組み合わせたり、その素材の性質を活かしたりしながら面白いものをたくさん作りだしています。

その中で、友達の影響はとても大きいもの。一緒に作っていく中で、工作が得意な友達が面白そうな物を作っていると、それに魅力を感じ、同じものをまねて作ろうとします。

例えば、工作が得意なA君がティッシュペーパーの箱にラップの芯を取り付けて掃除機を作ります。それを見ていたB君もA君の作った掃除機の魅力に憧れ、まったく同じ素材を使いながらまねて作り始めました。

一瞬、同じような掃除機ができました。しかし、工作が得意なA君の掃除機は、裏表を上手にガムテープで貼っているのに対して、B君はセロハンテープで表面を貼っただけなので、すぐに壊れてしまいます。その失敗を通して、A君はどうしたら丈夫に貼れるかを学んでいきます。

友達と同じものを作りたいという「いっしょ」への思いが、一生懸命他の子の作る過程や作った物を注意深く見ることで、失敗を乗り越える手だてを考える力を生み出します。

その後、A君は掃除機をより本物に近づけようと、持ち手や本体と持ち手をつなぐコードを作り始めました。すると、B君もコードを付け始めました。そして、今度はB君の方がコードをコンセントにつなぐアイデアを考え出しました。

2人の「より本物らしいものへ」という気持ちが、相互の学びを高め合います。できる子をまねて終わりではなく、互恵的に学び合い、より面白く高め合っています。

私たち保育者は、この時期の「いっしょパワー」を理解し、子どもが工夫できるように教材を準備し、模倣を越えて、それぞれの創造性を引き出せる保育者でありたいと思います。